環境経営レポート

活動期間 2022 年 6 月 1 日～2023 年 5 月 31 日

ITO 有限会社イトウプリント

http://www.itoh-p.com

適応規格：エコアクション２１に準拠
（2017 年：環境経営システムガイドライン）

《発　行　日》2023 年 7 月 8 日
《発行版》十八版（2004.11.1 初版発行）

目　次

１、組織の概要と対象範囲　２

２、環境経営方針　３

３、環境経営目標　４．５

４、環境経営計画　６

５、環境経営計画に基づき実施した取組内容（実施体制）　７．８

６、環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果、評価
　次年度の環境経営目標及び環境経営計画　９～１４

７、環境関連法規などの遵守状況の評価の結果
　違反・訴訟などの有無　１５．１６

８、代表者による全体の評価と見直しと指示　１７

当社の組織及び事業活動の概要

(1)事業所の名称及び代表者名

有限会社イトウプリント《英文表記》ITO PRINT CO.LTD

代表取締役　　伊　藤　憲　吾　（いとう　けんご）

(2)事業所所在地

（本社工場）長野県塩尻市片丘下沢４８７８番地６

（三重工場）三重県名張市東田原２４４５－１０（㈱オンテック様 第二工場内）

(3)環境管理責任者及び連絡先

総務部　　伊　藤　美　保　（いとう みほ）

電話　０２６３－５３－０８５１　FAX　０２６３－５２－９５８４

E-mail：itoh-p@avis.ne.jp

(4)事業活動と主要設備

・電子プリント基板の液状レジスト印刷、シルク印刷事業

印刷機 6 台、露光機 4 台、研磨ライン 1 ライン、現像ライン 2 ライン

量産用印刷機 3 台、手刷用印刷機 1 台、ボックス乾燥機 9 台、フィルム検査機、

フォトマッチングデスク

・スクリーン印刷法による印刷マスキング事業

無溶剤系の熱硬化性剥離法ソルダーレジストインクを印刷、半田不要部のマスキング使用。

耐熱性に優れワンアクションで簡単剥離可能。インク垂れ込みのないマスキング処理可能。

・精密メタルマスク製版事業

レーザー製版（ファインピッチ QFP/BGA/0603 チップ など)、高密度実装用マスク、

低コストエッチング

製版、特殊メタルマスク（チタンコート、フルアディティブ、可変メタル、突起メタル）

レーザー加工機 6 台、測長機 2 台

(5) 認証・登録範囲

・全組織（本社・三重工場）における全活動を対象としています。

電子プリント基板印刷を主力事業とする有限会社イトウプリントは、地球環境の保全を企業経営の基本姿勢とし、事業活動全般にわたって環境負荷低減活動に取り組んでいます。

このため地域社会の良き企業市民として、事業活動における循環型社会づくりを目指して、2004 年 11 月から『エコアクションン２１』環境経営マネジメントシステムを推進しています。

環境経営方針

基本理念

有限会社イトウプリントは『お客様に喜ばれ信頼される製品を提供する』経営理念と品質方針に沿い、
地域社会の良き企業市民としてかけがえのないこの地球環境を守り、 次世代に引き継ぐ事が最も大切である事を全社員が認識し、
事業活動及び製品・サービスにおいて環境保全に積極的に取り組み、 循環型社会づくりを目指します。

環境方針

①環境と健康に優しい製品の製造販売とサービス提供に努めるとともに、 環境負荷に配慮した事業活動を推進します。
②事業活動において省エネルギー、 省資源、 廃棄物減量化と再資源化及び化学物質の削減を推進します。
③グリーン購入の取組みを推進します。
④環境目標を定めその達成に努めます。 また定期的に見直しを行ない継続的改善を図ります。
⑤当社事業活動に係わる環境関連法規を遵守し、 環境負荷物質の削減及び混入防止管理を徹底すると共に、 誠実かつ公正な
事業活動を推進します。
⑥社員一人ひとりが自発積極的な環境保全活動に取り組むための環境教育を継続実施し、 全員の理解と実践を図ります。
⑦この環境基本方針は会社内外に公表し、 地域社会との積極的コミュニケーションをはかります。

2019 年 06 月 03 日　七版制定（2004 年 11 月 01 日　初版制定）

ITO 有限会社 イトウプリント
代表取締役　伊藤　憲吾

環境経営目標(中長期目標)

承　認	審　査	作　成
伊藤	伊藤	大嶋

《項　目》	《目　標、値》
①電力使用量	総電力使用量（kwh）の前年実績を維持する。 2022年/6～2023年/5・・・・・520,105kwhを維持する。 2023年/6～2024年/5・・・・・前年実績を維持する。 2024年/6～2025年/5・・・・・前年実績を維持する。 2025年/6～2026年/5・・・・・前年実績を維持する。
②化石燃料量	化石燃料総使用量（ℓ）の前年実績を維持する。 2022年/6～2023年/5・・・・・13,036Lを維持する。 2023年/6～2024年/5・・・・・前年実績を維持する。 2024年/6～2025年/5・・・・・前年実績を維持する。 2025年/6～2026年/5・・・・・前年実績を維持する。
③水道＆排水量	総水使用量＝排水量（㎥）の前年実績を維持する。 2022年/6～2023年/5・・・・・12,681㎥を維持する。 2023年/6～2024年/5・・・・・前年実績を維持する。 2024年/6～2025年/5・・・・・前年実績を維持する。 2025年/6～2026年/5・・・・・前年実績を維持する。
④CO2の削減	CO2総排出量(Kg-CO2)の前年実績を維持する。 2022年/6～2023年/5・・・・・241,873kg-CO2を維持する。 2023年/6～2024年/5・・・・・前年実績を維持する。 2024年/6～2025年/5・・・・・前年実績を維持する。 2025年/6～2026年/5・・・・・前年実績を維持する。
⑤化学物質管理と廃棄物分別 ＆削減、リサイクル	化学物質管理の徹底、廃棄物分別の徹底、リサイクルの推進廃棄物の削減 2022年/6～2023年/5・・・・・前年実績を維持する。 2023年/6～2024年/5・・・・・前年実績を維持する。 2024年/6～2025年/5・・・・・前年実績を維持する。 2025年/6～2026年/5・・・・・前年実績を維持する。
⑥環境ボランティアと従業員 環境教育	環境ボランテア活動と従業員：環境教育の拡大強化継続 全社員参加の地域清掃活動＆従業員環境啓蒙教育 を年二回実施・継続する。

⑦グリーン購入	グリーン購入を推進する 2022年/6～2023年/5・・・・・前年実績を維持する。 2023年/6～2024年/5・・・・・前年実績を維持する。 2024年/6～2025年/5・・・・・前年実績を維持する。 2025年/6～2026年/5・・・・・前年実績を維持する。
⑧自社の生産・販売・提供するサービス	梱包用段ボールのリユース促進 ～2030年/5・・・・・リユース率25%を達成する

※各項目の目標値は「前年実績を維持する」を目標にしているが、更なる削減を進めるため推進委員会を中心に削減実施事項を話し合い、中長期に実行をする。

【過去の実績】

環境活動項目	単位	2019 年	2020 年	2021 年
電力使用量	kwh	510,722	489,582	520,105
化石燃料使用量	ℓ	9,320	9,114	13,036
二酸化炭素排出量	kg-CO2	242,105	241,873	241,873
水道使用量	m3	14,350	12,571	12,681
産業廃棄物	Kg	7,259	10,093	11,881
グリーン購入		グリーン購入の推進		
梱包用段ボールのリユース率		―	―	7.41%

※購入電力の二酸化炭素係数は契約電力会社(中部電力)係数を使用しています。
(2021 年度の実排出係数は 0.449 を使用)

環境経営計画

承認	確認	作成
		原

〈期間〉2022年6月～2023年5月

※○　良く出来た　△　出来た　×　出来なかった

項目	目標値	施策	担当	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
①電力消費量の削減	総電力使用量(kw/h)の前年実績を維持する。	1.照明、電灯スイッチ類の消灯点灯適正管理。	大嶋												
		・　昼休み、休憩時の消灯徹底													
		・　不稼動時の電力機器電源切の徹底													
		・　照明機器のLED化													
		2.空調(エアコン)管理													
		・　メンテナンス徹底と適温化													
		3.コンプレッサー稼動管理徹底													
		4.デマンド管理(契約電力に関わる)													
②化石燃料使用量の削減。	化石燃料総使用量(ℓ)の前年実績を維持する。	1.車両運転方法の適正化／軽油、ガソリン、LPGアイドリングストップ、急発進、急加速空ふかし排除駐車停車中エンジン停止の徹底	伊藤												
		・適正な車両整備の推進													
		・社員車ほか来社顧客車両への徹底を図る													
③水道水使用量の削減と排水量の削減。	総水量＝排水量(m^3)の前年実績を維持する。	1.基板洗浄用水量の削減	松沢												
		・ 研磨ライン水量絞り													
		2.水道凍結防止のチョロ出し中止													
		・凍結防止帯の更新、新設													
④化学物質の管理徹底と廃棄物削減。資源物のリサイクル推進	インクや薬品等の保管倉庫内や保管場所の管理徹底	1.保管化学物質及び廃棄物管理	征矢野												
		・表示徹底と指定場所管理													
		・空き缶、包装材等適正管理													
	廃棄物の前年実績を維持する	・社員への安全衛生教育徹底													
		・MSDS活用の推進													
	廃棄物の分別徹底	2.廃棄物の分別排出徹底													
	リサイクルを推進する。	・鉄、銅、アルミ等区分し再利用・販売													
		3.廃棄物全体の削減(kg)を図る	伊藤												
⑤環境ボランティアと従業員教育	● 環境ボランティア活動の強化	1.社長以下全従業員参加の地域屋外清掃ボランティア活動(片丘地区)を年二回、春秋実施する。													
	● 従業員への環境教育推進	2.従業員の環境啓蒙教育を年二回実施する。													
	● 環境負荷物質対応教育	3.環境負荷物質削減内容の教育を年二回実施。													
		4.月一回の30分清掃の実施													
⑦グリーン購入	● グリーン購入を推進する	1.再生トナーの100%利用	塩原												
		2.ｸﾞﾘｰﾝ購入													
⑧自社の生産・販売・提供するサービス	● 環境・資源に配慮した製品を提供する。		各MG,CF												
		1.梱包材(段ボール)回収再利用													

環境経営計画に基づき実施した取組内容

環境経営計画

承認	確認	作成
伊藤	大嶋	原

〈期間〉2022年6月～2023年5月

※○　良く出来た　△　出来た　×　出来なかった

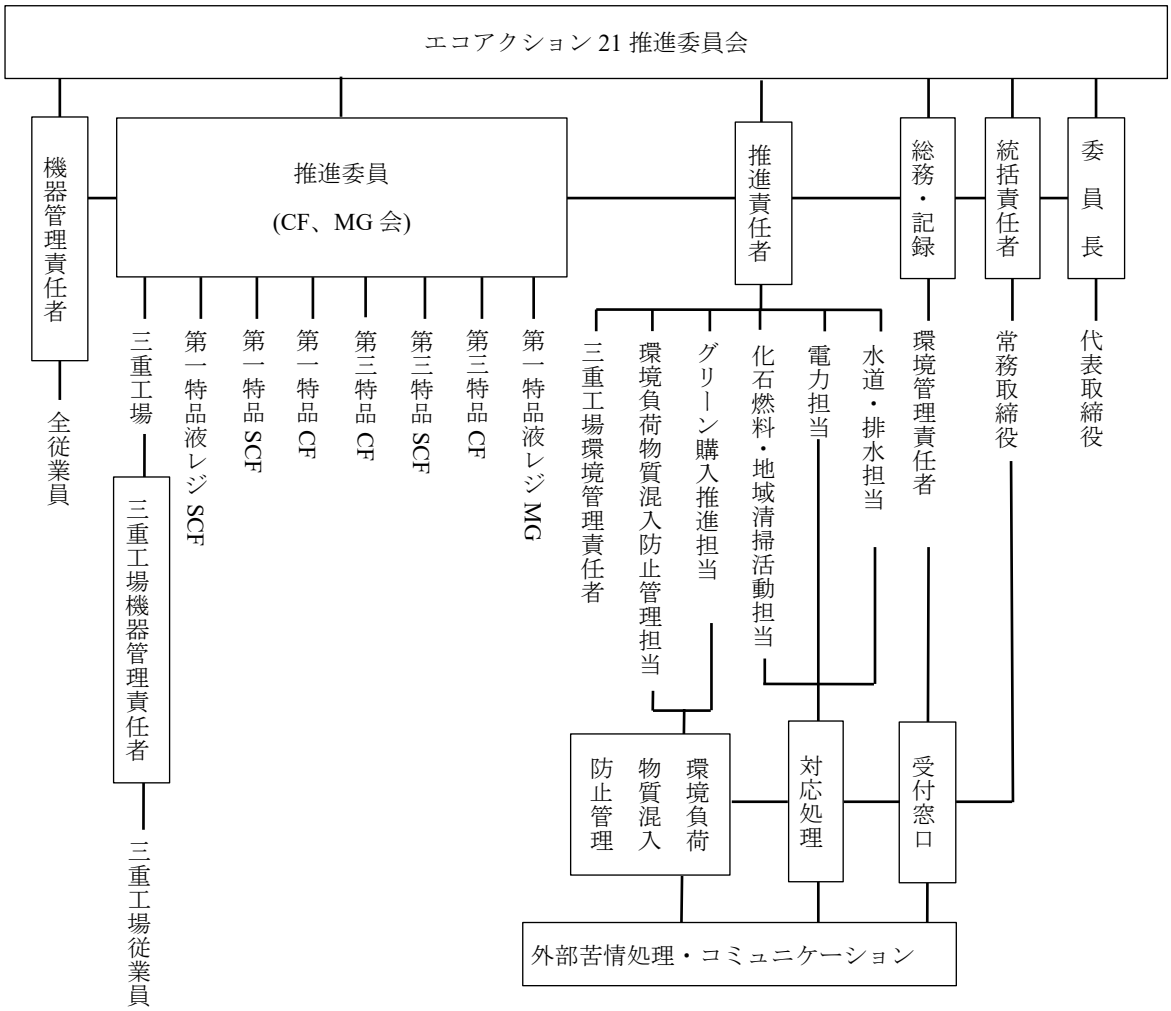
項目	目標値	施策	担当	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
①電力消費量の削減	総電力使用量(kw/h)の前年実績を維持する。	1.照明、電灯スイッチ類の消灯点灯適正管理。	大嶋												
		・　昼休み、休憩時の消灯徹底		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・　不稼動時の電力機器電源切の徹底		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・　照明機器のLED化		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		2.空調(エアコン)管理													
		・　メンテナンス徹底と適温化		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		3.コンプレッサー稼動管理徹底		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		4.デマンド管理(契約電力に関わる)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②化石燃料使用量の削減。	化石燃料総使用量(ℓ)の前年実績を維持する。	1.車両運転方法の適正化／軽油、ガソリン、LPGアイドリングストップ、急発進、急加速空ふかし排除駐車停車中エンジン停止の徹底	伊藤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・適正な車両整備の推進		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・社員車ほか来社顧客車両への徹底を図る		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③水道水使用量の削減と排水量の削減。	総水量＝排水量(㎥)の前年実績を維持する。	1.基板洗浄用水量の削減	松沢												
		・ 研磨ライン水量絞り		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		2.水道凍結防止のチョロ出し中止													
		・凍結防止帯の更新、新設		－	－	－	－	－	－	○	○	○	○	○	－
④化学物質の管理徹底と廃棄物削減。資源物のリサイクル推進	インクや薬品等の保管倉庫内や保管場所の管理徹底	1.保管化学物質及び廃棄物管理	征矢野	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・表示徹底と指定場所管理		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・空き缶、包装材等適正管理		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	廃棄物の前年実績を維持する	・社員への安全衛生教育徹底		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・MSDS活用の推進		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	廃棄物の分別徹底	2.廃棄物の分別排出徹底		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	リサイクルを推進する。	・鉄、銅、アルミ等区分し再利用・販売		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		3.廃棄物全体の削減(kg)を図る		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑤環境ボランティアと従業員教育	● 環境ボランティア活動の強化	1.社長以下全従業員参加の地域屋外清掃ボランティア活動(片丘地区)を年二回、春秋実施する。	伊藤	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
	● 従業員への環境教育推進	2.従業員の環境啓蒙教育を年二回実施する。		○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
	● 環境負荷物質対応教育	3.環境負荷物質削減内容の教育を年二回実施。		○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
		4.月一回の30分清掃の実施		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑦グリーン購入	● グリーン購入を推進する	1.再生トナーの100%利用	塩原	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		2.ｸﾞﾘｰﾝ購入		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑧自社の生産・販売・提供するサービス	● 環境・資源に配慮した製品を提供する。		各MG,CF												
		1.梱包材(段ボール)回収再利用		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

実　施　体　制

審　査	作　成
伊藤	大嶋

(有)イトウプリント
エコアクション21・推進委員会　《組織図》

平成二十九年(二〇一七年)三月二日　(再編成)



	役割・責任・権限
委員長	・環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用、時間技術者を用意 ・環境管理者責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標の設定を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施
統括責任者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムを構築し、実施管理 ・法規制等の要求事項登録簿を承認 ・環境活動実施計画書を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告
総務・記録	・環境活動実施計画の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
推進責任者	・環境管理責任者、EA21 推進会議に事務局 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規等チェックリスト」の作成 ・環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 ・環境負荷物質混入防止管理(RoHS)及び ISO9001 とのリンク ・環境教育等の計画及び実施(環境ボランティアと従業員教育)
推進委員	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練等の実施 ・自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	・機器管理 ・環境方針を理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

活動実績

環境活動項目	単位	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
電力使用量	kwh	510,722	489,582	520,105	502,273
化石燃料使用量	ℓ	9,320	9,114	13,036	9,352
二酸化炭素排出量	kg-CO2	242,105	232,479	241,873	247,500
水道使用量	m3	14,350	12,571	12,681	16,309
産業廃棄物	Kg	7,259	10,093	11,881	4,665
グリーン購入	グリーン購入の推進				
梱包用段ボールのリユース率		—	—	7.41%	6.82%

※購入電力の二酸化炭素係数は契約電力会社(中部電力)係数を使用しています。

評価

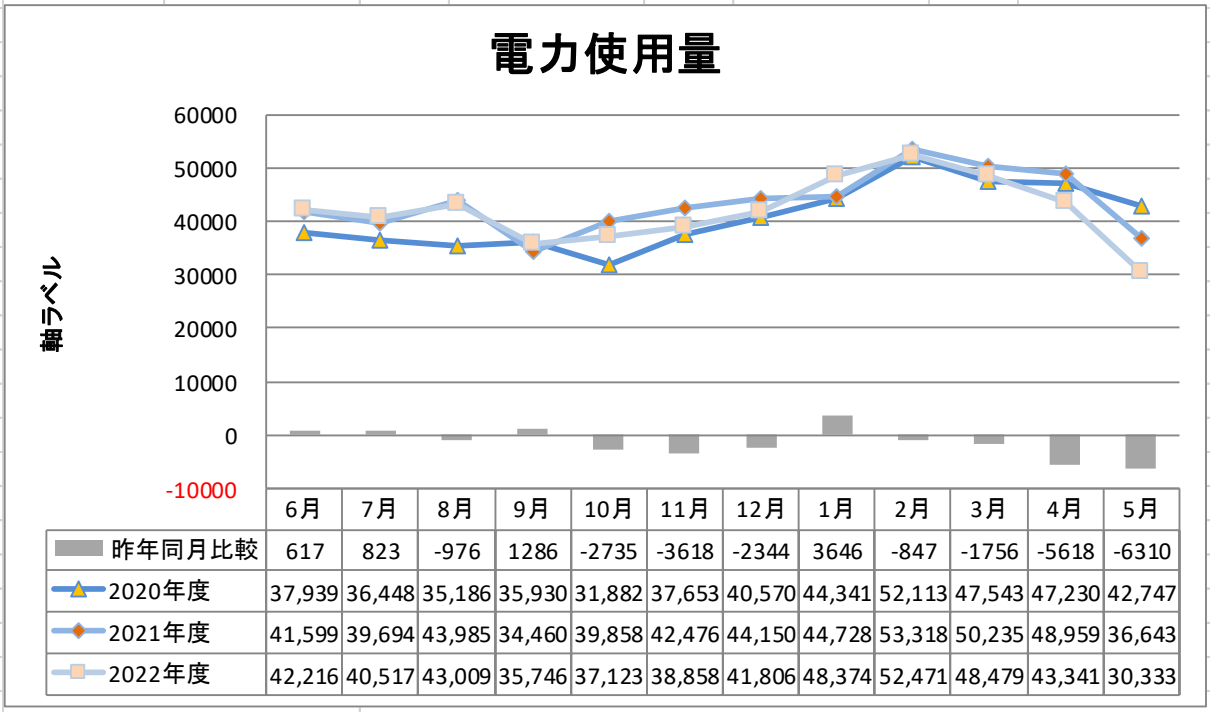
社会経済活動の再開に伴う受注増により、各項目において増加に転じている。
この傾向は引き続き 2023 年度も続くと思われる。

水道使用量については中間の設備改修(メンテ)により本年度増であるが、2022 年 4 月より排水処理の見直しにより直後の月が半減に転じており、年間を通じて大幅な削減を見込んでいる。
一方、排水処理設備の見直しにより、従来凝集＝汚泥となっていたものが下水排出可能となり、廃棄物処分量は減少に転じている

一昨年より開始した梱包用段ボールのリユースは、お客様の理解もあり浸透してきているがリユース率の算定方法にも問題がみられる事が判明したため、2023 年度は新たな算定方法での集計をう事とした(概ね 1.8～2.0 倍程のリユース率となる見込みです)。

2022年度電力使用量比較結果

	2020年度		2021年度		2022年度		昨年同月比較
6月	37,939	kWh	41,599	kWh	42,216	kWh	617
7月	36,448	kWh	39,694	kWh	40,517	kWh	823
8月	35,186	kWh	43,985	kWh	43,009	kWh	-976
9月	35,930	kWh	34,460	kWh	35,746	kWh	1286
10月	31,882	kWh	39,858	kWh	37,123	kWh	-2735
11月	37,653	kWh	42,476	kWh	38,858	kWh	-3618
12月	40,570	kWh	44,150	kWh	41,806	kWh	-2344
1月	44,341	kWh	44,728	kWh	48,374	kWh	3646
2月	52,113	kWh	53,318	kWh	52,471	kWh	-847
3月	47,543	kWh	50,235	kWh	48,479	kWh	-1756
4月	47,230	kWh	48,959	kWh	43,341	kWh	-5618
5月	42,747	kWh	36,643	kWh	30,333	kWh	-6310
年平均	40,799	kWh	43,342	kWh	41,856	kWh	-1486
合計	489582	kWh	520105	kWh	502273	kWh	-17832



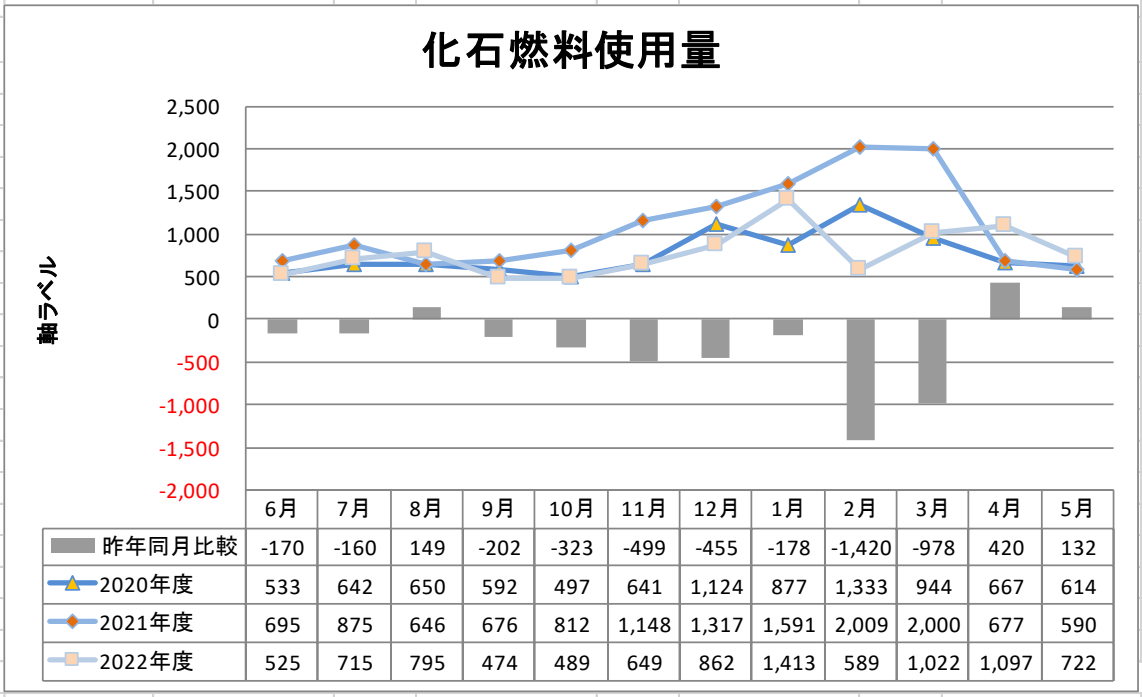
【達成状況と評価結果】

○2022年後半より電力使用量の多い印刷工程(主に現像機・乾燥機)の受注悪化に伴い前年度より減少となった。

化石燃料と同様エネルギー価格の上昇・高止まり状態にあり、引き続き節電の周知徹底を図る。

2022年度化石燃料使用量比較結果

	2020年度		2021年度		2022年度		昨年同月比較
6月	533	ℓ	695	ℓ	525	ℓ	-170
7月	642	ℓ	875	ℓ	715	ℓ	-160
8月	650	ℓ	646	ℓ	795	ℓ	149
9月	592	ℓ	676	ℓ	474	ℓ	-202
10月	497	ℓ	812	ℓ	489	ℓ	-323
11月	641	ℓ	1,148	ℓ	649	ℓ	-499
12月	1,124	ℓ	1,317	ℓ	862	ℓ	-455
1月	877	ℓ	1,591	ℓ	1,413	ℓ	-178
2月	1,333	ℓ	2,009	ℓ	589	ℓ	-1,420
3月	944	ℓ	2,000	ℓ	1,022	ℓ	-978
4月	667	ℓ	677	ℓ	1,097	ℓ	420
5月	614	ℓ	590	ℓ	722	ℓ	132
年平均	760	ℓ	1,086	ℓ	779	ℓ	-307
合計	9,114	ℓ	13,036	ℓ	9,352	ℓ	-3,684



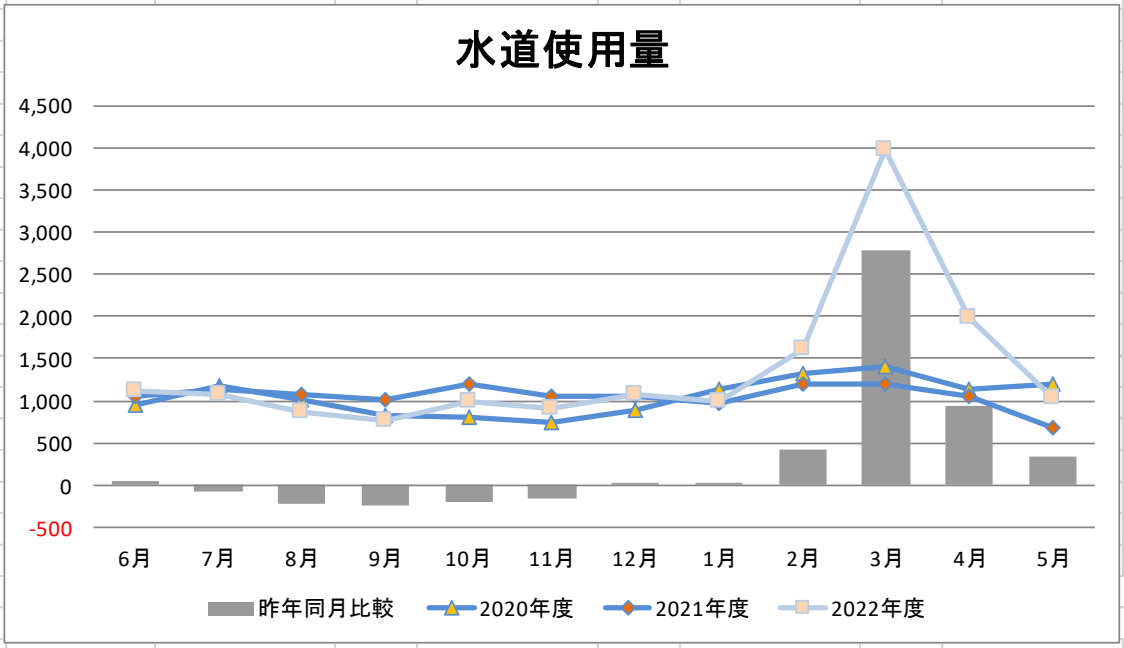
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
昨年同月比較	-170	-160	149	-202	-323	-499	-455	-178	-1,420	-978	420	132
2020年度	533	642	650	592	497	641	1,124	877	1,333	944	667	614
2021年度	695	875	646	676	812	1,148	1,317	1,591	2,009	2,000	677	590
2022年度	525	715	795	474	489	649	862	1,413	589	1,022	1,097	722

【達成状況と評価結果】

〇新型コロナウイルスに伴う制限の緩和により、コロナ前に近い水準での営業活動を再開してるが、2022年後半からの急速な受注量減により減少に転じ、社内運送便における燃料使用量も減少している。
依然としてエネルギー価格の高止まりは続いており、引き続き消費を抑えた使用を心掛ける。

2022年度水道使用量比較結果

	2020年度		2021年度		2022年度		昨年同月比較
6月	945	㎥	1,056	㎥	1,105	㎥	49
7月	1,176	㎥	1,137	㎥	1,064	㎥	-73
8月	1,013	㎥	1,081	㎥	856	㎥	-225
9月	818	㎥	1,016	㎥	772	㎥	-244
10月	801	㎥	1,187	㎥	980	㎥	-207
11月	740	㎥	1,061	㎥	897	㎥	-164
12月	887	㎥	1,048	㎥	1,064	㎥	16
1月	1,141	㎥	978	㎥	980	㎥	2
2月	1,318	㎥	1,191	㎥	1,601	㎥	410
3月	1,403	㎥	1,200	㎥	3,981	㎥	2,781
4月	1,138	㎥	1,043	㎥	1,988	㎥	945
5月	1,191	㎥	683	㎥	1,021	㎥	338
年平均	1,048	㎥	1,057	㎥	1,358	㎥	301
合計	12,571	㎥	12,681	㎥	16,309	㎥	3,628



【達成状況と評価結果】

〇受注に波はあるが、社会経済活動の再開に伴う受注の増加により微増している
〇2023年3月は、凍結防止処理と設備メンテナンスにより、使用量が増加。
〇2022年4～5月で排水処理方法の変更を行い、使用量の減少に転じており、23年度は更に使用量減少が見込まれる

☆☆☆ 廃棄物排出量の前年実績を維持する。 ☆☆☆

2022 年 6 月～2023 年 5 月

	前年度	2022 年 6 月 ～ 2023 年 5 月	比　較	対前年比率(%)
汚　泥(kg)	9,260	2,510	−6750	27.1%
廃　酸(ℓ)	240	844	604	351.7%
廃アルカリ(ℓ)	0	0	0	0%
廃 プ ラ(kg)	2,245	2,145	−100	95.5%
廃　油(ℓ)	136	60	−76	44.1%

【達成状況と評価結果】

- 廃アルカリは、数年毎に実施する現増層の洗浄を前年度実施済で本年度は回収無し。
- 汚泥は 2022 年 4～5 月の排水設備更新により、従来凝集していたものが希釈し下水排出可能となった為、大幅に減少した。

環 境 経 営 目 標

2023 年 6 月～2024 日年 5 月

＜ITO エコアクション 21 推進委員会＞

2023 年 6 月～2024 年 5 月の一年間、《ITO エコアクション 21 環境経営システム》第二十期の推進にあたり環境負荷提言目標を下記 9 項目とする。

各項目ごとに推進担当責任者をおき、目標への全社的取組み推進と計数チェックをより確実に実施する。

【1】総電力使用量（kwh）の前年実績 502,273KW h を維持する。
【2】化石燃料総使用量（ℓ）の前年実績 9,352ℓを維持する。
【3】二酸化炭素の排出量の前年実績 247,500kg-C02 を維持する
【4】総水量＝排水量（㎥）の前年実績 16,309 ㎥を維持する。
【5】廃棄物排出量（kg）の前年実績 4,665kg を維持する。
【6】環境ボランティア活動（年二回）を継続実施する。
【7】グリーン購入の推進
【8】製品（ﾒﾀﾙﾏｽｸ・基板）環境負荷物質の混入防止管理を強化する。
【9】製品（ﾒﾀﾙﾏｽｸ）の枠、梱包用段ボールのリユースを促進する。
【10】製品（微細加工品）加工機導入によるコスト削減を PR し受注拡大に繋げる

環境関連法規への違反・訴訟の有無

2023 年 06 月 17 日

当社は 2005 年よりエコアクション２１を運用しており、定期的にＥＡ２１推進委員会が中心となり、チェックを行い現在及び過去 10 年間の違反の無い事を確認致しました。また、同様に関係機関及び近隣住民からの指摘、苦情、訴訟等は本年度一件もありませんでした。

内　　容	対象期間（2022 年 06 月～2023 年 05 月）
法律違反の有無	ありません
訴訟の有無	ありません
苦情の内容	ありません

適用される環境関連法規制

当社の事業活動に伴い適用される環境関連法規等は、次の通りです。

関連法	要　求　事　項	順守評価
①水質汚濁防止法 ＊　公害防止に関する長野県条例	・特定設備の届出・排水の有害物質、生活環境項目濃度分析	○
②廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・　処理責任者の届出 ・　マニフェストの運用 （マニュフェスト交付状況報告は電子マニュフェストの場合不要）	○
③労働安全衛生法 （有機則、特定則）	・　人の健康に係わる物質等の管理 ・　科学物質安全データシートの整備 ・　作業環境測定	○
④消防法 ＊松本広域連合火災予防条例	・施設及び保安責任者の届出と保安管理 （少量危険物届出）	○
⑤PRTR 法	・　人の健康に係わる物質等の管理と届出	○
⑥フロン排出抑制法	・　機器の保守点検記録の保管（エアコン、エアドライヤー）	○

使用化学物質＝（原材料に含有）一覧表

当社で使用するインク等の原材料の中には、ごく微量の、化学物質が含有されている。

- 物質名・ＣＡＳ番号・政令番号は、原材料メーカー作成のＭＳＤＳ＝安全データシートによる。
- 年間使用量は、各原材料の年間総使用量に当該物質の含有率を単純に乗じて算出した。

化学物質【ＰＲＴＲ対象物質】

2022 年 6 月～2023 年 5 月

ＣＡＳ番号		物質名	使用量
25068-38-6		ビスフェノール＝エポキシ樹脂	14.0kg
		合計	14.0kg

年間使用量 14kg の為、対象外。

	代表者による見直しの結果		
			2023年7月8日
	項目	見直しの有無	評価コメント
1	環境方針の見直し 実施体制の見直し	無	問題なしと判断する。
2	環境目標	無	問題なしと判断する。
3	環境活動計画	無	問題なしと判断する。
4	全体評価コメント		エネルギー価格の高騰と資源価格の高騰により
			資材及び使用エネルギーの抑制は緊急必須の
			課題である。
			又、カーボンニュートラル等、持続する社会の
			実現・維持に向けて環境に配慮した活動を継続
			して行く。